

6月の資源物・ごみ収集日割表

【問い合わせ】清掃センター(☎282-7289)

資源物		燃えないごみ・粗大ごみ	
真崎、村松北、舟石川中丸、外宿2	1日・8日 15日・22日	外宿1	10日・24日
船場、照沼	1日・15日	内宿1、亀下	4日・11日 18日・25日
原子力機構(長堀・荒谷台・箕輪)、須和間、フローレスタ須和間	2日・9日 16日・23日	百塚、内宿2、豊岡、舟石川3 竹瓦	4日・18日 11日・25日
緑ヶ丘	2日・16日	舟石川2	5日・12日 19日・26日
白方	9日・23日	南台、川根	5日・19日
舟石川1、原子力機構(百塚)	3日・10日 17日・24日	豊白	12日・26日
宿、押延、岡	3日・17日	※各回収日の午前7時から8時30分までに出してください。	
燃えるごみ ※祝日の収集も行います。		燃えないごみ・粗大ごみ	
真崎、村松北、白方、宿、岡、原子力機構(箕輪・百塚・荒谷台)、真砂寮、権現山寮、南台、緑ヶ丘、押延、須和間、川根、照沼、豊岡、亀下、フローレスタ須和間		真崎、村松北、権現山寮、真砂寮、原子力機構(荒谷台)	
		2日・16日	
		原子力機構(長堀)、長堀寮、舟石川3、外宿1、外宿2、竹瓦	
		1日・15日	
		緑ヶ丘、南台、豊岡、亀下	
		5日・19日	
		百塚、豊白、内宿1、内宿2	
		4日・18日	
		白方、岡、原子力機構(百塚)	
		9日・23日	
		舟石川1、船場	
		8日・22日	
		宿、川根、照沼、押延、須和間、フローレスタ須和間、原子力機構(箕輪)	
		12日・26日	
		舟石川2、舟石川中丸	
		11日・25日	
燃えるごみ ※祝日の収集も行います。			
真崎、村松北、白方、宿、岡、原子力機構(箕輪・百塚・荒谷台)、真砂寮、権現山寮、南台、緑ヶ丘、押延、須和間、川根、照沼、豊岡、亀下、フローレスタ須和間		月・木曜日	
舟石川1、舟石川2、舟石川3、舟石川中丸、百塚、豊白、原子力機構(長堀)、長堀寮、外宿1、外宿2、船場、竹瓦、内宿1、内宿2		火・金曜日	

ふるさと歴訪
〜歴史を再発見〜

「小澤野」から「南台」へ〜いにしへの南台〜

東海村文化財保護専門員

川又 清明

「小澤野」とは須和間地区にある「小澤野遺跡」のことです。団地造成の計画を受け、今から44年前の昭和51年の夏に茨城大学の茂木雅博先生(現茨城大学名誉教授)を中心に発掘調査が行われ、当時大学1年生だった私も参加しました。

調査初日は調査区内を参加者全員で巡り、関東ローム層(地山)とは違った黒い色の部分が遺構(住居跡など)であると教わりました。その後、当時大学2年生の故・稲村繁さん(植輪の研究者、村内の遺跡発掘調査に尽力)と共に少しずつ掘っていくと、今までは色の違う固いロームが出てきました。移植ごてで叩くとパンパンという音がしました。これを見に来られた茂木先生の「これが住居の床面で、これを第1号住居跡にしよう」との言葉に、2人で顔を見合わせ、にやけたことを覚えていきます。出てきた土器から1650年ほど前の古墳時代前期の住居跡であると分かり、宿に帰ってから稲村さんとその頃の土器の図や写真を見ました。

翌日さらに掘り進めると、かまどを持った住居跡とつながり、茂木先生から「古墳時代後期(1500年ほど前)の住居跡



【調査後のミーティングの様子】

である」と教えていただきました。先生の指示で、炉がある住居跡を「1号A住居跡」、かまどがある住居跡を「1号B住居跡」としました。出土した土器を比べてみると、同じ甕(甕)でも炉の甕はバスケットボールのように丸く、かまどの甕は卵のように縦長のものでした。かまどは炉に比べて熱効率がよく調理がしやすくなったと知り、当時の人々の知恵を感じました。

小澤野遺跡からは43軒の住居跡が見つかりましたが、同時期に建っていたわけではありません。約1700年から1400年前までの古墳時代の間、眼下に低地(水田)が広がる小澤野の丘陵に数軒ずつが建ち、人々の生活が営まれていました。人々が去った後は林や畑として利用されてきましたが、600年余り後の発掘調査後に団地の造成が始まり、名も「南台」と変わり、また家が建ち、新しい人々の生活が始まりました。

地域には歴史があり、先人の知恵などを知ることがとても有意義なことです。このとき出土した遺物は、現在建設中の(仮称)歴史と未来の交流館に収納・展示される予定です。皆さんにぜひ、自分の住んでいる地域の歴史を知ってほしいと思います。